

各試験団体のデータによるCEFRとの対照表

CEFR	Cambridge English	英検	GTEC CBT	GTEC for STUDENTS	IELTS	TEAP	TEAP CBT	TOEFL iBT	TOEFL Junior Comprehensive	TOEIC / TOEIC S&W
C2	CPE (200+)				8.5-9.0					
C1	CAE (180-199)	1級 (2630-3400)	1400		7.0-8.0	400	800	95-120		1305-1390 L&R 945~ S&W 360~
B2	FCE (160-179)	準1級 (2304-3000)	1250-1399	980 L&R&W 810	5.5-6.5	334-399	600-795	72-94	341-352	1095-1300 L&R 785~ S&W 310~
B1	PET (140-159)	2級 (1980-2600)	1000-1249	815-979 L&R&W 675-809	4.0-5.0	226-333	420-595	42-71	322-340	790-1090 L&R 550~ S&W 240~
A2	KET (120-139)	準2級 (1284-1800)	700-999	565-814 L&R&W 485-674	3.0	150-225	235-415		300-321	385-785 L&R 225~ S&W 160~
A1		3級-5級 (419-1650)	-699	-564 L&R&W -484	2.0					200-380 L&R 120~ S&W 80~

英検：日本英語検定協会 <http://www.eiken.or.jp/forteachers/data/cefr/>
http://www.eiken.or.jp/association/association/info/2015/pdf/20151218_pressrelease_CSE2.pdf

TOEFL：米国ETS <http://www.ets.org/Media/Research/pdf/RM-15-06.pdf?WT.ac=clk>

IELTS：ブリティッシュ・カウンシル（および日本英語検定協会）資料より

TEAP：第1回 英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する検討会 吉田研作教授資料より

Cambridge English（ケンブリッジ英検）：ケンブリッジ大学英語検定機構 <http://www.cambridgeenglish.org/exams-and-qualifications/cefr/cefr-exams/>
<http://www.cambridgeenglish.org/exams/cambridge-english-scale/>

GTEC：ベネッセコーポレーションによる資料より
「L&R&W」の記載が無い数値が4技能の合計点

TOEIC：IIBC <http://www.toEIC.or.jp/toEIC/about/result.html>
「L&R」または「S&W」の記載が無い数値が4技能の合計点

試験名	実施団体	受験人数	年間実施回数	成績表示方法	出題形式: 実施方式 (*1)	受験料
Cambridge English (ケンブリッジ英検)	ケンブリッジ大学 英語検定機構	国内人数非公表 ※全世界では約250万人	2-3回	KET/PET/FCE/CAE/CPE(5つ) CEFR、合否、 スコア(80-230)、グレード	L, R, W: 紙/CBT S: ペア面接	PET(B1) 11,880円~(*5) KET(A2) 9,720円~
実用英語技能検定	日本英語検定協会	約263.5万人 (H26実績)	3回	1級~5級 合否による表示 H27~スコア・バンド併記	L, R: 紙/CBT (W): 紙 (S): 面接/CBT (*2)	2級: 5,000円 準2級: 4,500円
GTEC CBT	ベネッセコーポレーション Berlitz Corporation ELS Educational Services ※一般財団法人進学基準研究機構(CEES)と共催	非公表	3回 (H27)	0-1400点	L, S, R, W: CBT	9,720円
GTEC for STUDENTS	ベネッセコーポレーション Berlitz Corporation ELS Educational Services	約73万人 (H26実績)	2回	0-810点	L, R, W: 紙 S: タブレット	3,080円 L, R, W 5,040円 L, R, W, S
IELTS	ブリティッシュ・カウンシル、 ケンブリッジ大学英語検定機構 日本英語検定協会 等 ※全世界では250万人	約3.6万人 (H27速報値)	約35回	1.0-9.0 (0.5刻み)	L, R, W: 紙 S: 面接	25,380円
TEAP	日本英語検定協会	約1.3万人 (H27実績)	3回	80-400点	L, R, W: 紙 S: 面接 (*4)	15,000円
TEAP CBT	日本英語検定協会	2016年度 10月より実施	1回 (2016年度) 2017年度以降複数回予定	0-800点	L, R, W, S CBT (*6)	近日公開予定
TOEFL iBT	テスト作成: ETS 日本事務局: CIEE	非公表	40-45回	0-120点 (4技能を各0-30点で評価)	L, S, R, W: CBT	230USドル
TOEFL Junior Comprehensive	テスト作成: ETS 日本事務局: GC&T	非公表	2-3回	0-352点	L, S, R, W: CBT	9,500円
TOEIC	テスト作成: ETS 日本事務局: IIBC ※TOEICプログラム全世界約700万人	約240万人 (H26実績)	10回	10-990点 (L, R各5-495点)	L, R: 紙	5,725円
TOEIC S&W	テスト作成: ETS 日本事務局: IIBC ※TOEICプログラム全世界約700万人	約2.4万人 (H26実績)	24回	0-400点 (S, W各0-200点)	S, W: CBT	10,260円

*1: L=Listening, S=Speaking, R=Reading, W=Writing *2: Wは1級・準1級(H28から2級に導入), Sは3級以上(H28から4級・5級に導入)

*3: Sはオプション

*4: L/R, L/R/Wでも受験可能

*5: 実施試験センターにより異なることあり

*6: L/R, でも受験可能

主な英語の資格・検定試験の出題意図・語彙数 等

2016/03/25版

試験名	目的・出題意図	語彙数	国際通用性 ①実施国数 ②主な活用地域 ③海外団体との連携
Cambridge English (PET:CEFR B1)	英語圏における日常生活に必要とされる実践的な英語力があるかを評価する	3,000語程度 (*1)	①約130か国 ②英国、欧州、オーストラリア、ニュージーランド ③CaMLA(米国ミシガン大学)、OET(豪州)等
実用英語技能検定 (2級: CEFR B1)	英語圏における社会生活(日常・アカデミック・ビジネス)に必要な英語を理解し、使うことができるかを評価する	4,000語程度 (*2)	①約50か国 ②アメリカ、オーストラリア、カナダ等 ③アジア6地域7団体およびCRELLA(英国)
GTEC CBT	英語を使用する大学で機能できる(アカデミックな)英語コミュニケーション力を測る	3,000~6,000語程度 (CEFR C1まで)	②北米(ELS Educational Services)
GTEC for STUDENTS	英語によるジェネラルな状況におけるコミュニケーション能力を測る	3,000語以下 ※タイプによって異なる(CEFRB2まで)	
IELTS	英語を用いたコミュニケーションが必要な場所において、就学・就業するために必要な英語力があるかを評価する	5,000~6,000語程度(*2)	①約140ヶ国以上 ②EU諸国、オーストラリア、カナダ、ニュージーランド、アメリカ等
TEAP	EFL環境の大学で行われる授業等で行う言語活動において英語を理解したり、考えを伝えたりすることができるかを評価する	2,000~5,000語程度 (タスクにより異なる) (*2)	③CRELLA(英国)
TEAP CBT	ICTを活用した出題を行い、EFL環境の大学の授業等で行う言語活動において、英語を理解したり、考えを伝えたりすることができるかを評価する。	2,000~5,000語程度 (タスクにより異なる) (*2)	
TOEFL iBT	高等教育機関において英語を用いて学業を修めるのに必要な英語力を有しているかを測ることを目的とする。	(R) 3,000語で90.45%をカバー 5,000語で95.37%をカバー (L) 3,000語で96.22%をカバー(*3)	①約130か国以上 ②英語圏(北米、オーストラリア、ニュージーランド等)、非英語圏(ドイツ、オランダ、トルコ、韓国等)
TOEFL Junior Comprehensive	英語を母国語としない中高生の英語運用能力を世界標準で評価する。	3,000語程度 98%の単語がセンター試験に出現(*4)	①8か国(実施国数拡大中、2技能については既に50か国以上)
TOEIC / TOEIC S&W	和文英訳・英文和訳などの技術ではなく、身近な内容からビジネスまで幅広くどれだけ英語でコミュニケーションができるかというのを評価する。	4,000語以上 (*5)	①約150か国

*1: English Vocabulary Profile Wordsに基づいてカウントした概算 *2: BNC(British National Corpus) *3: BNC/COCA word-family lists < 第1

回連絡協議会資料より > *4: 2006年以降のセンター試験。グローバル・コミュニケーション&テストング独自調査(2014年)

*5: 外部リサーチャーが独自に行った調査結果「英検2級より多いがテレビ、ニュース番組よりは少ない」からの推計値

試験名	CEFR検証方法	補足事項
Cambridge English (ケンブリッジ英検)	<ul style="list-style-type: none"> ・CEFRと共に開発（部分的にはあるが、CEFRはCambridge Englishをベースに設計された経緯あり） 	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年1月よりCambridge Englishスケール(スコア化)をFCE(B2)/CAE(C1)/CPE(C2)に導入、2016年2月よりKET(A2)/PET(B1)に導入して完成予定
実用英語技能検定	<ul style="list-style-type: none"> ・英検Can-doリストとCEFRとの比較 ・専門家によって構成されるパネルを中心として、①Basket法(*1) ②Modified Angoff法(*2)を使用して検証 ・EALTA(欧州言語テスト・評価学会)エキスパート研究者との共同研究 ・他試験結果(TOEFL PBT,iBT等)との比較 	<ul style="list-style-type: none"> ・スコア化(英検CSEスコアとバンド)導入(CEFRとの対応付け、およびIRTを用いた各級の関係性よりスコア化)
GTEC CBT	<ul style="list-style-type: none"> ・実際のGTEC CBT受験者によるCEFRレベル別Can-doアンケート結果により検証 ※科学研究費補助金 基盤研究(A)における「CEFR-J研究開発チーム」の“CEFR-J”デスクリプタを用いて関連づけ調査を実施 	
GTEC for STUDENTS	<ul style="list-style-type: none"> ・GTEC for STUDENTSとGTEC CBTのスコアの関連性を前提とし、上記研究内容と結び付けることにより検証。 	
IELTS	<ul style="list-style-type: none"> ・有識者によるベンチマーキング ・テスト結果使用者等による関係者からのフィードバックをもとに検証 	
TEAP	<ul style="list-style-type: none"> ・Can-do アンケートによるCEFRとの比較 ・独立研究機関(CRELLA)との共同研究 ・他試験結果(TOEFL ITP,iBT等)との比較 	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年度よりTEAP CSEスコア併記
TEAP CBT	<ul style="list-style-type: none"> ・CEFRの対応付けを公式マニュアル(Relating Language Examinations to the CEFR: A Manual, Council of Europe)にのっとり実施。 ・Listening/Readingは、Tucker-Angoff Methodのうちの一つ、Yes/No methodを使用。Speaking/Writingは、Bookmark Methodを応用し、解答を総合的に評価。 	<ul style="list-style-type: none"> ・TEAP換算スコア、TEAP CBT CSEスコアも併記 TEAPとの1000名以上の相関性調査を行い、TEAPのCEFRレベルとの比較
TOEFL iBT	<ul style="list-style-type: none"> ・Modified Angoff 法(*2)を使用 ・5,000名以上のテスト受験者データを使用 ・大学や英語教師からのCEFRレベルとTOEFLスコアレベルに関するフィードバックも活用 	
TOEFL Junior Comprehensive	<ul style="list-style-type: none"> ・Modified Angoff 法(*2)を使用 ・15か国18名の有識者による検討、2技能テストのスタディとの検証も実施 	
TOEIC / TOEIC S&W	<ul style="list-style-type: none"> ・Modified Angoff 法(*2)を使用 ・22名の有識者による検討、100,000名以上のテスト受験者データを使用 ・大学や英語教師からのCEFRレベルとTOEICスコアレベルに関するフィードバックも活用 	

*1: Basket法 「(問題に対して)CEFRのどのレベルにある受験者であればこの問題に正解できますか?」という分析手法

*2: Modified Angoff法 「(問題に対して)CEFRの各レベルに相当する受験者が100人いるとして、何名がこの問題に正解できるか?」という分析手法

資料2 英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用について 基礎資料

試験名・団体名			目的・ねらい	活用について	
試験名	実施主体	主な目的	出題意図	活用例	国際通用性 ①試験が実施されている国数 ②多く活用されている地域・大学 ③海外の資格・検定試験団体との連携情報
Cambridge Englishケンブリッジ英語検定	ケンブリッジ大学英語検定機構 (英連邦ケンブリッジ大学の一部であり、英語の学習や指導に関する実務情報を提供する評価機関、非営利組織)	学習者が実生活のさまざまな状況において、コミュニケーションのために英語をどのように使うことができるかを評価する	<思考力・判断力・表現力> 「話す」テストでは、イラストや写真について受験者自らの経験や知識を活用しながら、制限時間内で論理的に意見をまとめる <技能統合型> (ペアで対面式対話)として相手の意見を「聞く」も必要。論理的に首尾一貫性のある会話をしながら、自分の意見を提案し、相手が、建設的に相手の同意や意見を引き出す「書く」ことで議論を導きスキルをみる。積極的な会話を重ねようとしているが、リアルなコミュニケーションに必要なスキルが試される。 サンプル問題URL (PET for Schools/レベルB1): http://www.cambridgeenglish.org/exams/preliminary-for-schools/how-to-prepare/	・アイルランド、豪州の査証申請に活用可能 ・大学・企業・省庁など20,000を超える世界中の機関により、英語力の証明としてケンブリッジ大学英語検定機構の試験は認定、活用されている	①世界130か国で実施 ②主に英国、欧州、次にオーストラリア、ニュージーランド、カナダ ③CamLA (ケンブリッジ・ミシガンテスト) 米国ミシガン大学と提携、米国英語に対応、OET (医療専門英語試験) 豪州ボックスヒル・インスティテュートと提携、医療従事者用英語に対応
英用英語検定試験	公益財団法人 日本英語検定協会	英語圏における社会生活(日常・アカデミック・ビジネス)に必要な英語を理解し、使うことができるかを評価する	<思考力・判断力・表現力> 社会的なあるトピックに関する質問に対して技能としての英語のみならず、受験者が日頃の生活や学習の中で身につけた知識をも活用して意見を述べ、その根拠を具体的な根拠を元に議論を展開することが求められる <技能統合型> カードに書かれた英文を読み、内容に関する質問を聞いたうえで、英語で意見を述べる <情報活用能力> カードに書かれたイラスト等の非言語情報を整理・理解し、時系列や聞き手を意識しながら説明をする サンプル問題URL: https://www.eiken.or.jp/eiken/exam/	・入試における活用(2015年3月優遇校調査延べ数) 大学419校、短大208校、高専9校、高校817校、中学87校 ※合計1,540校 ・単位認定による活用(2015年3月優遇校調査延べ数) 大学246校、短大56校、高専44校、高校745校 ※合計1,091校 ・海外における活用は右記②参照	①約世界50か国(公開会場が3か所、準会場が130か所)で実施 ②アメリカ、オーストラリア、カナダ等、約370の海外の大学等、そしてオーストラリア6つの州のうち5つの州の留学生受け入れ可能な全州立高校約570校において、留学の際の語学力証明として認定されている ③Academic Forum on English Language Testing in Asiaにて、6地7団体とアジアにおける英語子ステイティングの課題共有と連携の向上を目的に連携、英国の独立研究機関ORELLA-英検の妥当性検証を連携して実行している
GTEC CBT	ベネッセコーポレーション Beritac Corporation ELS Educational Services ※一般財団法人 進学基準研究機構(CEES)と共催	英語を使用する大学で機能できる(アカデミック)英語コミュニケーション能力を測る	<聞く>学生生活での会話や講義からの出題で、理解課題に必要な情報を「聞く力」を測定 <話す>会話応答力から自分の意見を述べる力まで「話す力」を測定 <読む>サンプル問題学生生活で遭遇する情報や、講義内容などの出題で「読む力」を測定 <書く>パリエーション豊かな出題で多角的に「書く力」を測定 ※資料を読み取り意見を書くなど2技能統合型の出題あり	GTEC CBTのスコアを入試に活用することが可能。 参考URL: http://www.benesse-gtec.com/cbt/about/list.html	①ELS Educational Servicesを通じての北米を中心とした大学進学を想定
GTEC for STUDENTS	ベネッセコーポレーション Beritac Corporation ELS Educational Services	英語によるジェネラルな状況におけるコミュニケーション能力を測る	<聞く>即応性、情報選択、要点理解など多角的に「聞く力」を測定 <話す>リアルな場面設定で、普段から意見展開など幅広い「話す力」を測定 <読む>特に速読的な情報検索、概要把握する「読む力」を中心に測定 <書く>与えられたテーマに対して自分の考えを自由表述することで「書く力」を測定	学校における技能別の指導検証のために活用することが可能。 GTEC for STUDENTSのスコアを入試に活用することも可能。 参考URL: http://gtec-for-students.jp/gtecmag/gtecmag.htm	
IELTS	ブリタニッシュ・カウンシル、IDP IELTS オーストラリア、ケンブリッジ大学英語検定機構 (日本では公益財団法人 日本英語検定協会が事務局として実施運営・広報活動を実施)	英語を用いたコミュニケーションが必要な場所において、就学・就業するために必要な英語力があるかを評価する	<批判的思考・論理性> ・提示されている論点に対して、批判的な視点をもって検証できるかどうか問われる ・英語で論理的に意見を展開し、相手の理屈が得られるように表現することが求められる <思考力・判断力・表現力> ・自身の経験や知識を基に、提示された課題に関する事象や論拠を選択し、適切な表現をつかって効果的に英語で発信できるかどうか求められる <柔軟性・情報理解力> ・用いた資料で述べられた情報を理解し、客観的に英語で描写する力が求められる サンプル問題: http://takeielts.britishcouncil.org/prepare-test/fee-practice-tests	【世界】世界145か国、約9,000の大学・企業・政府機関等で留学や移住の際の語学力証明として活用(右記参照) 【日本】全旧帝大を含む全国主要50大学にて特別会場実施受験による留学促進として活用(一部要課方式) ・全国主要約50大学にて入学者選抜要件として活用 ・東大・IUJ・都教委において語学力アセスメントとしての活用	①世界+140の国と地域で実施 ②世界で約9,000の機関(政府移民局、国境当局等を含む)、EU諸国、オーストラリア、カナダ、ニュージーランドは特にIELTS志向が強いが、近年アメリカや英国での認知が高まり、現在3,000以上のアメリカの機関がIELTSを受け入れている
TEAP	公益財団法人 日本英語検定協会	EFL環境の大学で行われる授業等で言う言語活動において英語を理解したり、考えを伝えたりすることができるかを評価する	<思考力・判断力・表現力> アカデミックのトピックに対する4技能にわたる英語の運用能力を問うだけでなく、文章の構成や図表との関連を考えたながら読み解いたり、受験者自身の知識を活用しながら論理的に意見を述べる・議論する能力が求められる <技能統合型> キックオフ課題、その説明を聞きながら、関連する質問に解答する英文と表・グラフを読み、内容に関するテーマに関して解答を書く <情報活用能力> 表・グラフ等の非言語情報と英文から得られる情報を統合して理解し、その内容を要約したうえで自分の意見をまとめて書く サンプル問題URL: http://www.eiken.or.jp/teap/construct/	2016年度入試においては、上智大学、青山学院大学、東京理科大学、立教大学、関西学院大学、関西大学、立命館アジア太平洋大学、中央大学等の入試で活用。 2017年度入試から、早稲田大学、明治大学等が採用を発表しており、今後も増えて行く予定。 一部入学直後、及び習熟度検証のためのプレースメント及びアサーメントテストとして活用有。	③言語テストに関する英国の独立研究所(ORELLA)に検証を依頼し、これまで開発された国際的通用性の高いテストと同様の設計手法に基づき問題作成や分析等を行っている
TEAP CBT	公益財団法人 日本英語検定協会	ICTを活用した授業を行い、EFL環境の大学で行われる授業等で言う言語活動において、英語を理解したり、考えを伝えたりすることができるかを評価する。	<思考力・判断力・表現力> アカデミックのトピックに対する4技能にわたる英語の運用能力を問うだけでなく、文章の構成や図表との関連を考えたながら読み解いたり、受験者自身の知識を活用しながら論理的に意見を述べる・議論する能力が求められる。 <技能統合型> 表・グラフから情報を「読み取り」、要点を「書く」 アカデミックな文章を「読み」、関連する講義音声や「聞き」、要約と自分の意見を「書く」 同じテーマについて学習する文章とグラフを「読み取り」、その矛盾点を「述べる」 2技能統合型 <情報活用能力> 表・グラフ等の非言語情報と英文から得られる情報を統合して理解し、その内容を要約したうえで自分の意見をまとめて書くし、あらいばきする	TEAPのスコアと同様、TEAP CBTのスコアを、一般入試および、AO・推薦入試にも広く活用。	
TOEFL (TOEFL iBT)	Educational Testing Service (ETS) (日本では国際教育交流協会の(OIEE)日本代表団がTOEFLテスト日本事務局として広報・周知活動を実施)	高等教育機関において英語を英語力を用いているかを確認することを目的とする。	テスト問題は全てアカデミックな内容。なかつ大学で英語を用いて学業を行ううえで、学部・院生が頻りに求められる言語技能タスクにまつ問題を作成。(この言語技能タスクは従来の学業成績を収めるために必要) <思考力・判断力・情報分析力・表現力カ>~3技能統合型 Speaking/Writeでタスクに対して、Integrated Taskという同時に複数の技能を測定する問題(インプットとアウトプットを同時に測定)が出題される(例「テキストを読み、関連する余音/講義を聞いて、問題に解答(話す・書く) サンプル問題(1) http://www.ets.org/jp/toefl/iibt/prepare/toefl.interactive_sampler (2) http://www.ets.org/toefl/iibt/prepare/quick_prep/)	(海外) 9,000以上の海外大学・大学院、その他機関において主に入学選考基準として利用 オーストラリア留学申請に活用可能 ・医療機関や認可機関、専門資格の認定に使用 (日本) 大学における入試選考・単位認定(2015年のスコア利用状況のアンケートでは回答大学549校) 252校が入試(5校が20校が単位)に活用 ・高校教員採用時の優遇事例(年のアンケート調査では46都道府県・政令都市教育委員会がスコア利用・優遇等の回答あり) ・外務省 国際関係人事センター派遣制度の選考基準 ・入事院 国家公務員採用総合職試験 等	①130か国以上、9,000以上の大学や機関で活用 ②英語圏(北米、オーストラリア、ニュージーランド等)での入学選考基準に活用。非英語圏(ドイツ、オランダ、トルコ、韓国等)での入学選考基準に活用
TOEFL Junior Comprehensive	Educational Testing Service (ETS) (日本では株式会社グローバル・コミュニケーション&テストセンター(G&T)が事務局として実施運営・広報・普及活動を実施)	英語を母国語としない中高生の英語運用能力を世界標準で評価する	<思考力・判断力・表現力>【独立型】Listening/Reading 読取文の情報を使い、最も論理的に関連のある(しかし文中に明記されていない)内容を選択する問題などがあり、単に英文を理解するだけでなく、思考力・判断力が求められる https://toefl-jr.ets.org/sampleQuestions/TOEFLjr-jr-dodder.html 【統合型】 Listen-Speak/Listen Write 論じられていない内容を聞き、要約し、決められた時間内で書き、論じられているアカデミックな内容を聴き、要約を行い、文章に発信する問題など https://toefl-jr.ets.org/sampleQuestions/TOEFLjr-jr-waunakea.html	2015年2月に実施したアンケート調査では、18大学において4技能のTOEFL Junior Comprehensiveを入試の優遇条件として採用と回答。	①2014年より開始され、現在世界8か国にわたって実施されている。実施国数は拡大中(2技能のTOEFL Junior Standardについては既に50か国以上で実施されている)
TOEICテスト	Educational Testing Service (ETS) (日本では(一財)国際ビジネスコミュニケーション協会が事務局として実施運営・普及・広報活動を実施)	一般からビジネスまで幅広い英語によるコミュニケーション能力(「聞く、読む」能力)を測定する。	<聞く>明確に述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できる、あるいは詳細が理解できる。 <読む>文章の中の具体的な情報を理解できる、情報をもとに推測できる、複数の情報を関連付けられることができる。 サンプル問題: http://www.toeic.or.jp/toeic/about/tests/sample01.html	採用学校897校中600校(大学・短大・高専)が入学試験に活用(H26年度実績)。企業における海外出張者選抜、昇進・昇格基準、大学における推薦入試・単位認定基準の指標として用いられているほか、英語研修や授業の効果測定、自己啓発の目安として幅広い活用	①TOEICプログラム (TOEICテスト・TOEIC Bridge・TOEIC S&W) は世界150か国、1万4千団体が活用。年間約700万人が受験(H26実績)
TOEIC Speaking & Writing Tests (TOEIC S&Wテスト)	Educational Testing Service (ETS) (日本では(一財)国際ビジネスコミュニケーション協会が事務局として実施運営・普及・広報活動を実施)	国際的な職場環境において、効果的に英語でコミュニケーションするために必要な「話す、書く」能力を測定する。	<話す>ネイティブスピーカーや英語に堪能なノンネイティブスピーカーに理解しやすい言葉で話すことができる。日常、業務上必要なやりとりを適切に行うことができる。筋道の通った継続的なやりとりができる。 <書く>適切な語彙・構文を使用し、文法的に正しい文を作成できる。情報、質問、指示などを伝える文章を作成できる。理由、根拠などを示しながら自分の考えを相手に伝える文章を作成することができる。 サンプル問題: http://www.toeic.or.jp/sw/about/tests/sampletest.html	国家試験の通訳案内士試験でTOEICスコア840以上、TOEICスピーキングスコア160以上、TOEICライティングスコア160以上が英語筆記試験免除対象となっています。大学・企業・団体の発信力測定に活用	①TOEICプログラム (TOEICテスト・TOEIC Bridge・TOEIC S&W) は世界150か国、1万4千団体が活用。年間約700万人が受験(H26実績)

資料7-3

資料2 英語力評価及び入学選抜における英語の資格・検定試験の活用について 基礎資料

主な受験ターゲット層および試験のレベル						検定料・場所・回数		
試験名	主な受験者層	受験人数	難易度(CEFRとの関係)	語彙数	目標言語使用領域	実施回数・会場数	受験料	受験料の減額・補助・助成の支援制度
Cambridge Englishケンブリッジ英検	中学生 高校生 大学生 社会人	世界で年間250万人 (2014年度実績)	CEFRレベル:A2-C2 (なお、A2未満のレベルについては、国際児童英検のスターターズがPre-A1を、ムーバースがA1を決定)	A1(国際児童英検スターターズ) 800語程度 A2(KET) 1,500語程度 B1(PET) 3,000語程度 B2(FCE) 5,000語程度 C1(CAE) 8,000語程度 C2(CPE) 7,000語程度 (English Vocabulary Profile Wordcatに基づいてカウント)	[Preliminary(PET) CEFR レベルB1] 複雑でない指示や公共放送を聞いてその要点を理解するなど、日常生活で遭遇する可能性のある言語	・日本では2~3回/年(年間実施回数は試験センターにより異なる) ・試験センターのある北海道、長野、東京、兵庫、岡山、福岡のほか、愛知、大阪、広島、鹿児島島の計10会場	【参考価格】2014年6月~2015年12月 KET(A2) 9,720円~ PET(B1) 11,880円~ FCE(B2) 19,980円~ CAE(C1) 27,440円~ CPE(C2) 25,380円~ ※実施する試験センターにより異なることあり	・学校団体での受験は、最少受験人数の規定や会場提供を条件に減額実施は可能(文部科学省の「英語教育関連事業に係る研究費・研修協力校を対象とした特別価格」を提供する試験センターは今年度原則15%程度の減額可能) ・問い合わせ先:ケンブリッジ大学英語検定機構 日本語部 e-mail: info@exam@cambridgeenglish.org
英検	小学生 中学生 高校生 大学生 社会人	約263.5万人(H26実績)	CEFRレベル:A1-C1 C1⇒1級 B2⇒準1級 B1⇒2級 A2⇒準2級 A1⇒3級、4級、5級	[2級] 4,000語程度 (BNC<British National Corpus>)	[2級] 指導者を伴う言語使用・学習環境において遭遇する可能性の高い社会性のある内容(日常・アカデミック・ビジネス)に関する言語	・3回/年(6~7月、10~11月、1~2月) ・全国約17,400会場(公開会場230都市400会場、準会場 産島等を含む全国17,000会場)	・1級:8,400円 ・準1級:6,900円 ・2級:5,000円(4,600円) ・準2級:4,500円(4,100円) ・3級:3,200円(2,800円) ・4級:2,100円(1,600円) ・5級:2,000円(1,500円) ※括弧内は、準会場受験の場合	・英語担当教員費用特別検定料制度(教員特別検定料(税込)) 1級:4,000円(定価:8,400円)、準1級:3,000円(定価:6,900円) ・小学校教員対象 英検検定料助成(教員特別検定料(税込)) 1級:4,000円(定価:8,400円)、準1級:3,000円(定価:6,900円) 2級:2,000円(定価:5,000円) ・研究校・研修協力校、SGH指定校に該当する学校に対する助成(特別検定料(税込)) 1級:5,000円(定価:8,400円)、準1級:4,000円(定価:6,900円) 2級:3,000円(定価:5,000円)、準2級:2,500円(定価:4,500円) 3級:2,000円(定価:3,200円)、4級:1,000円(定価:2,100円) 5級:1,000円(定価:2,000円) 問い合わせ先:公益財団法人 日本英語検定協会 英検サービスセンター TEL:03-3266-6581
QTEO GBT	高校生 大学生	非公表	CEFRレベル:A2-C1	3,000語~6,000語程度 (タスクにより異なる)	大学生が経験する日常生活における言語や大学の講義などのアカデミックな言語	・実施回数は3回/年(H27予定) ・全国47都道府県・57会場(H26実績)	9,720円(税込)	
QTEO for STUDENTS	中学生 高校生	約73万人(H26実績)	CEFRレベル:A1-B2 Advance=高校2年~3年 Basic=高校1年~2年 Core=中学2年~中学3年	Advanced: 高校英語必修科目の教科書レベル Basic: 中学3か年の教科書レベル Core: 中学1~2年の教科書レベル ※上記に加えて、日常生活で頻出の重要語いも含む	高等学校や中学校の授業で学んだ英語を「実際に使う」場面を想定したジェネラルな言語	・検定日は7月・12月 ・学校会場	3,080円(税込) ※Speaking含む場合は、5,040円(税込)	文部科学省・英語教育強化地域拠点事業における拠点校、及び外部専門機関と連携した英語指導力向上事業における研修協力校においては、1,640円(税込)に減額補助。※Speakingテストは除く
IELTS	高校生 大学生 社会人	約3.6万人(H27年度速報値) ※2015年度より実施されているIELTS for UKVIの数も含む ※全世界では140カ国、約250万人(2014年度実績)	CEFRレベル:A2-C2	5,000~6,000語程度 (BNC<British National Corpus>)	英語を用いたコミュニケーションが必要な場所において、就学・就業した場合に遭遇する可能性のある言語	・35~40回/年(東京では年約30回実施、大阪、京都、名古屋、福岡では毎月実施) ・全国18都市に公開会場・特別会場として、全国約50の主要大学・教育機関においても実施	25,380円	・教員助成制度利用の場合、20,000円に減額で実施 ・問い合わせ先:教育事業部国際課 専用URL: http://www.eiken.or.jp/ielts/group/teacher/
TEAP	高校2年生以上	約1.3万人(H27年申込実績)	スコア→CEFR R 20~100⇒Below A2~B2 L 20~100⇒Below A2~B2 W 20~100⇒Below A2~B2 S 20~100⇒Below A2~B2	2,000~5,000語程度(タスクにより異なる) (BNC<British National Corpus>)	大学に入学後、指導・学習における場面で遭遇する可能性の高いアカデミックな内容に関する言語	2016年度 ・3回/年(7月、9月、11月) ・全国11都市約30会場 ※会場については今後拡大予定	・RL:6000円 ・RLW:10,000円 ・RLSW:15,000円	検討中
TEAP GBT	高校2年生以上	2016年度10月より実施予定	スコア→CEFR R 0~200⇒Below A2~B2 L 0~200⇒Below A2~B2 W 0~200⇒Below A2~B2 S 0~200⇒Below A2~B2	2,000~5,000語程度(タスクにより異なる) (BNC<British National Corpus>)	大学に入学後、指導・学習における場面で遭遇する可能性の高いアカデミックな内容に関する言語	2016年度 ・1回/年(10月) ・全国2都市約7会場 ※会場については今後拡大予定	近日公開予定	検討中
TOEFL (TOEFL iBT)	高校生 大学生 社会人	年間受験者数は非公表。ETSの発表では184校のTOEFLテスト実施開始から累計3,000万人以上が受験。また日本においては、2009年10月のコンピュータ試験版(TOEFL iBT)導入以降、100万人以上が受験。	CEFRレベル:B1-C1	<読む> 3,000語で90.45%、5,000語で95.37% <聞く> 3,000語で96.22% <書く> 3,000語で96.22% <読む> 3,000語で90.45%、5,000語で95.37% <聞く> 3,000語で96.22% <書く> 3,000語で96.22% (BNC/GOCA word-family lists) <第1回選考協議会資料より>	大学生活や大学での授業等のアカデミックな環境にて使用される言語。TOEFL iBTのタスク・デザインの特徴となったtask statementsは、多くの学術分野で頻繁に英語で遂行する必要があり、かつ学業成績においても重要性が高いことが、北米の大学の教員・学生へのアンケート調査で確認されている。	・40~45回/年 ・90会場(テスト実施日により会場数は異なる)	・通常申込 US\$230。(2015年9月現在) ・年により価格改定を行う場合あり。改定の場合7月に改訂される ・受験料自体の表示はドル表示であるが、支払時に日本円表記となるオプションあり ・年により受験料は異なる:US\$165~、US\$300。	・英語教員対象特別受験制度あり。学校教育法第1条に規定された小学校教員・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校・高等専門学校等の英語教員(常勤のみ)は21,000円で受験可能(2015年9月現在)
TOEFL Junior Comprehensive	中学生 高校生 大学生	非公表	CEFRレベル:A2~B2	3,000語程度 (98%の単語がセンター試験(2006年以降)に出現。グローバルコミュニケーション&テストング独自調査(2014年))	社会・個人との関係構築・維持のためのコミュニケーション能力、学生生活や授業の情報を適切に把握・共有するための能力、アカデミックな内容を学ぶために必要な能力	・2~3回/年 ・現在、受験者数に応じて、47都道府県、110都市、170会場のGBT会場の準備が可能	公開テスト 9,500円(税込) 団体特別受験割引制度あり	学校内等で実施する団体受験については、団体割引価格:2015年12月までは特別価格¥6,640(税込)で提供 問い合わせ: 03-6836-0125
TOEICテスト	高校生 大学生 社会人	国内年間約240万人が受験(H26年度実績)。高校・大学・団体・企業約3,400団体が活用(H26年度実績)。※全世界では150カ国	CEFRレベル:A1-C1	4,000語以上 (外部リサーチャーが独自に行った調査結果からの推計値)	日常生活から働く場面まで頻繁に使用されている言語	【公開テスト】 ・10回/年(受験地による) ・最大256会場(実施回による)	【公開テスト】 5,725円(税込) 【IPテスト(団体特別受験制度)】 4,155円(税込)	【公開テスト】・リポート受験割引:インターネット上でTOEIC公開テストの受験申込をすると、1年後のTOEIC公開テストを通常価格5,725円(税込)のところ、割引価格の5,092円(税込)で申込可能(団体一括受験申込の場合を除く)・団体一括受験申込(賛助会員価格)4,645円(税込)<10名以上の一括申込み> 【IPテスト(団体特別受験制度)】・賛助会員価格 3,075円(税込)<10名以上の一括申込み>
TOEIC Speaking & Writing Tests (TOEIC S&W)テスト	高校生 大学生 社会人	国内年間約2.4万人が受験(H26年度実績)。高校・大学・団体・企業260団体が活用(H26年度実績)。※全世界では25カ国	CEFRレベル:A1-C1	N/A	日常生活から働く場面まで頻繁に使用されている言語	【公開テスト】 ・10回/年(受験地による) ・最大30会場(実施回による)	【公開テスト】 10,260円(税込) 【IPテスト(団体特別受験制度)】 9,050円(税込) ※IPテストではスピーキング/ライティング個別に受験の場合、各6,170円(税込)	【公開テスト】 ・団体一括受験申込(賛助会員価格)9,180円(税込)<5名以上の一括申込み> 【IPテスト(団体特別受験制度)】 ・賛助会員価格 7,970円(税込)<5名以上の一括申込み> ※IPテストではスピーキングテストのみ/ライティングテストのみを個別に受験する場合、それぞれ5,090円(税込)<各テスト5名以上の一括申込み>

資料2 英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用について 基礎資料

問題作成・実施方法・出題形式			
試験名	問題の作成過程	実施方法・試験時間	出題形式
Cambridge Englishケンブリッジ英検	<ul style="list-style-type: none"> ケンブリッジ大学英語検定機構の研究・検証部門に所属する多数の言語評価の専任研究員で言語学、教育、テスト理論の専門家で作成。さらに外部コンサルタントも多数を担者として問題作成チーム(各チーム3名程度)に加わる。 年間後期～編集前実施→編集会議→「読む」「聞く」学習テスト、「話す」「書く」トイアルテスト→採点・分析(各セクション、タスク毎に難易度やコンテツツが直し網羅されている)か等を手エンク)→アイテムを重層→検定のテスト問題作成→テスト問題印刷→各課の試験センターへ発送 検定・採点・採点など試験を実施する上記のプロセスは外部機関の英国機構協会よりUS09001.2008を取得。 年間以下の回数実施できる問題数を標準(2015年) KET/PET for schools:各 PB 13, CB 11 First for Schools: PB 11, CB 9 CAE: PB 23, CB 16 CPE: PB 8, CB 4 計119回 	<ul style="list-style-type: none"> <聞く>ペーパー <話す>面接 <読む>ペーパー <書く>ペーパー [試験時間] PET(CEFR: B1) 2時間12分、KET(CEFR: A2) 1時間50分 <話す>以外(CBT(PC)あり、日本初のCBT(PC)試験センター誕生、今後学校会場に実施予定。 	<ul style="list-style-type: none"> レベルは、KET(A2)からCPE(C2)まで5段階。KET,PET,FCEは中高生対象の「フォー・スクールズ」シリーズあり <聞く>全てのレベルでマークシートと記述の両形式で解答 <話す>ペーパー面接。KET(約8分)～CPE(16分)と次第に増 <読む>KET(A2)とPET(B1)のみマークシート形式。FOE(B2)以上はマークシートと記述の両形式で解答 <書く>全てのレベルで記述式。語数がKET(25-35語)～CPE(280-320)へと次第に増
実用英語検定	<ul style="list-style-type: none"> ・アイテムライター・スペルチェッカー・校閲者による原案作成と外部校閲者のフィードバックを元に検討を重ねて作成 ・難易度調整のために一部の問題を事前にプレテスト(予備調査)し、難易度や内容面で質の保証された問題を使用 ・年間3回の実施可能な問題数を準備 	<ul style="list-style-type: none"> <聞く>ペーパー、CBT(PC) <話す>対面式面接、CBT(PC) <読む>ペーパー、CBT(PC) <書く>ペーパー [試験時間] 2級(CEFR: B1) 1時間47分、準2級(CEFR: A2) 1時間36分 	<ul style="list-style-type: none"> <聞く・読む・書く>【一次試験】 ・2級～5級は全てマークシート形式 ・1級・準1級はマークシート形式＋ライティングが記述形式 ※2016年度第一回から英検2級にライティング導入 <話す>【二次試験】 ・3級以上で面接方式 ※2016年度第一回から英検4.5級にスピーキングテスト導入
QTEO OBT	<ul style="list-style-type: none"> ・海外のテスト理論専門研究機関に所属するアイテムライターが作成 ・IRT理論に基づくスコア算出のためフィールドテストを定期的を実施し、十分な品質の問題を作成 ・大学有識者等による出題内容・レベルの検証作業を実施 	<ul style="list-style-type: none"> <聞く>CBT(PC) <話す>CBT(PC) <読む>CBT(PC) <書く>CBT(PC) [試験時間] 2時間55分 4技能すべてコンピュータで実施 	<ul style="list-style-type: none"> <聞く>クリック形式による選択式 <話す>音声録音による発話式 <読む>クリック形式による選択式 <書く>キーボード入力による自由記述式
QTEO for STUDENTS	<ul style="list-style-type: none"> ・海外のテスト理論専門研究機関に所属するアイテムライターが作成 ・IRT理論に基づくスコア算出のためフィールドテストを定期的を実施し、十分な品質の問題を作成 ・大学有識者、高校教員等による出題内容・レベルの検証作業を実施 	<ul style="list-style-type: none"> <聞く>ペーパー <話す>タブレット端末 <読む>ペーパー <書く>ペーパー [試験時間] 1時間55分 	<ul style="list-style-type: none"> <聞く>マークシート方式 <話す>音声録音による発話式 (※<話す>は、オプション) <読む>マークシート方式 <書く>自由記述式
IELTS	<ul style="list-style-type: none"> ・ケンブリッジ大学英語検定機構と外部の言語学者やテストの専門家からなる委員会の責任により、①Material bank②Item writing ③Pre-editing④Editing⑤Pretest construction and Pretesting ⑥Pretest Review ⑦Standards Fixing and Grading ⑧Test Constructionという大きく8段階に分けられる過程で3年をかけて作成される。 	<ul style="list-style-type: none"> <聞く>ペーパー(記述式) <話す>面接(1対1) <読む>ペーパー(記述式) <書く>ペーパー(記述式) [試験時間] 約2時間59分 	<ul style="list-style-type: none"> <聞く、読む>多肢選択&自由記述(設問による) <書く>ペーパー自由記述 <話す>1対1の面接方式(面接官は原則全員ネイティブ)
TEAP	<ul style="list-style-type: none"> ・言語テストに関する独立研究所(GRELLA)に検証を依頼して作成したテスト設計に合わせて問題作成。 ・アイテムライター・スペルチェッカー・校閲者による原案作成とフィードバックを重ねて問題を作成する。 ・作成したアイテム用いてプレテスト(調査目的のテスト)を行い、その結果を統計的に集計・分析し、内容的にも問題のないアイテムを最終的にテストセットに使用する。 ・年間3回の実施可能な問題数を準備。 	<ul style="list-style-type: none"> <聞く>ペーパー <話す>独自開発したSアプリを用いた面接 <読む>ペーパー <書く>ペーパー [試験時間] 3時間20分 	<ul style="list-style-type: none"> <聞く、読む> 多肢選択(マークシート)方式 <話す> 1対1の面接方式 <書く> 記述 ※<聞く/読む>、<聞く/読む/書く>でも受験可能
TEAP OBT	<ul style="list-style-type: none"> ・アイテムライター・スペルチェッカー・校閲者による原案作成とフィードバックを重ねて問題を作成する。 ・有識者による会議により問題の品質検証を行う。 ・作成したアイテムについて予備調査を行い、その結果を分析し、統計的に問題のないアイテムを最終的にテストセットに使用する。 	<ul style="list-style-type: none"> <聞く>CBT(PC) <話す>CBT(PC) <読む>CBT(PC) <書く>CBT(PC) [試験時間] 約3時間20分 4技能ともコンピュータで受験 インターネットを通じて問題が配信される 	<ul style="list-style-type: none"> <聞く、読む>多肢選択 <話す>インターネットでの対面式、コンピュータへ録音 <書く>コンピュータで文章を入力
TOEFL (TOEFL iBT)		<ul style="list-style-type: none"> <聞く>CBT(PC) <話す>CBT(PC) <読む>CBT(PC) <書く>CBT(PC) [試験時間] 約4時間 4技能ともコンピュータで受験 インターネットを通じて問題が配信される形式はComputer-based Test (CBT)であるが、ETSの名称はBT(Internet-based Test) 	<ul style="list-style-type: none"> <聞く、読む>多肢選択 <話す>コンピュータへ録音 <書く>コンピュータで文章を入力 <話す><書く>の答案データはインターネットを通じてETSから採点者へ送られ採点が行われる。
TOEFL Junior Comprehensive	<ul style="list-style-type: none"> ETSにて、Master's degree in TESOL, Applied Linguistics, Educationの経験者等を中心とした、Assessment Development Division, Research Division, Statistics Division等の担当部署が問題の作成、検証、統計処理等を行う。 年間、2～3回実施可能な問題数を準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> <聞く>CBT(PC) <話す>CBT(PC) <読む>CBT(PC) <書く>CBT(PC) [試験時間] 2時間14分 4技能すべてコンピュータで実施 	<ul style="list-style-type: none"> <読む、聞く>多肢選択 <話す>コンピュータへ録音 <書く>コンピュータで文章を入力
TOEIOテスト	<ul style="list-style-type: none"> テスト、教育、リサーチ等エキスパートを含む2,500名以上のスタッフを擁する世界最大の非営利テスト開発機関ETSによって問題の作成から評価まで行われている。 試験実施前に行われるテスト問題作成スタッフによる複数回の内容レビューおよび試験実施後に行われる統計専門家によるデータ分析・検証により試験の信頼性、妥当性、公平性を担保している。 	<ul style="list-style-type: none"> <聞く>ペーパー <読む>ペーパー [試験時間] 2時間 	<ul style="list-style-type: none"> <聞く>マークシート方式 <読む>マークシート方式
TOEIC Speaking & Writing Tests (TOEIC S&Wテスト)	<ul style="list-style-type: none"> テスト、教育、リサーチ等エキスパートを含む2,500名以上のスタッフを擁する世界最大の非営利テスト開発機関ETSによって問題の作成から評価まで行われている。 試験実施前に行われるテスト問題作成スタッフによる複数回の内容レビューおよび試験実施後に行われる統計専門家によるデータ分析・検証により試験の信頼性、妥当性、公平性を担保している。 Human Raterについては、品質維持のため事前のトレーニングに加え毎回評価を実施する際にも簡単な試験を最初に行い、評価基準が一定に保たれているか確認した上で評価にあっている。 	<ul style="list-style-type: none"> <話す>CBT(PC) <書く>CBT(PC) [試験時間] 1時間20分 	<ul style="list-style-type: none"> <話す>コンピュータへ録音 <書く>コンピュータへ文章を入力

資料2 英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用について 基礎資料

試験名	成績の表示方法 ①点数(スコア) ②グレード/階級/CEFRレベル 等	評価基準	評価・フィードバック	
			受験者/学校へのフィードバック ①受験者への課題・指導 ②学校へのフィードバック内容	結果再発行/学校からの問い合わせ等 ①再発行可能/不可 ②スコア確認等、学校が問い合わせた場合の対応 ③試験結果の有効期限
Cambridge Englishケンブリッジ英検	①総合評価スコア<Cambridge Englishスケール(80~230点、1点刻み)>および技能別スコア(80~230点、1点刻み)【2015年1月よりPE(C2),OE(C1),FOE(B2)に導入、PET,KETについては2016年2月に導入予定】 ②(1)3階級で表される合格グレード、(2)CEFRレベル(A2~C2)、(3)(FOE以上の場合)英語資格指標(NQF)のレベル URL: http://www.cambridgeenglish.org/jp/images/183109-page6_certificate.pdf	<読む>マークシートに基づきコンピュータによる採点 <聞く>記述で答えるパートは対話コンピュータによる採点 <話す・書く>ケンブリッジの評価基準の研修を受けた採点者が評価、ライティングは1名の採点者が1つのタスク(問題のみ採点する。採点結果をサンプル抽出し必要に応じてシニア採点者がチェックする質管理システム。 ※評価基準>評価基準: (例)PET for Schools <書く> http://www.cambridgeenglish.org/images/168143-cambridge-english-preliminary-for-schools-teachers-handbook.pdf (22/27ページに評価基準あり) <話す> http://www.cambridgeenglish.org/images/168143-cambridge-english-preliminary-for-schools-teachers-handbook.pdf (48/52ページに評価基準あり)	①総合評価のほか、各技能別にスケールスコアで示されるので4技能の中で得意・不得意ものがわかり、対策の手がかりになる サンプル: First(B2) http://www.cambridgeenglish.org/images/201341-understanding-your-sor-first-for-schools-2015.pdf ②総合評価のほか、各技能別にスケールスコアで示されるので4技能の中で得意・不得意ものがわかり、指導の手がかりになる サンプル: 同上	①成績や紛失時、条件により再発行可能。(有償、無償あり) 詳細 http://www.cambridgeenglish.org/jp/exams-and-qualifications/lost-certificates/ ②スコア確認等、学校が問い合わせた場合の対応 ③試験結果の有効期限 ④大学等の申請に必要な場合は、セキュリティの高い試験結果検証サービス(オンライン)をご利用頂くことにより無償で正しい情報とスコア受験者両方に提供可能 ⑤問合せ窓口は受験者登録した試験センター。申請の際に受験者IDおよび確認番号の申告があれば学校や大学はオンラインで直接試験結果の照会確認が可能 ⑥生涯学習、ただし、高等教育機関は独自に有効期限を定めていることが多いので、確認が必要
英検	①1級から5級(7つの級)で合格による成績表示 ②(2015年度より)合格に加えて英検CSEスコア及び英検バンドも併記	<読む・聞く>マークシートに基づきコンピュータによる採点 <話す・書く>採点者が評価基準に基づいて評価 <評価基準> http://www.eiken.or.jp/eiken/exam/criteria/	①受験者の合格、合格点、合格者平均点、全体平均点、受験者素点、合格点までの差、各問題正誤、分野別正答率、大問別得点、学習アドバイス等を記載し、受験者の現状のレベルを詳細に伝えている http://www.eiken.or.jp/eiken/result/ ②受験者ごとの合格、大問別の得点、過去2回分の受験結果、合格者平均点、全体平均点、受験者素点、合格点までの差、分野別正答率、大問別正答率等を記載し、受験者の現状のレベルを詳細に伝えている ※(2015年度より)合格に加えて英検CSEスコア及び英検バンドも併記	①合格証書は、紛失による再発行はできないため、合格の証明が必要な方は、別途「合格証明書(有料)」をお申し込みいただく ③留学に活用する目的の場合は、合格証明書発行日から数えて2年間と定める。ただし、留学の使用でなければ、取得した資格は永久有効
GTEC GBT	①トータルスコア 0~1400点 リーディング 0~320点 リスニング 0~350点 スピーキング 0~350点 ライティング 0~350点 ②独自のグレード(1~9)	<読む・聞く>マークシートに基づきコンピュータによる採点 <話す・書く>2名の採点者が評価基準に基づいて評価	①試験終了後、約4週間後、マイページの登録住所に郵送にてスコアレポートをお届け ※ホームページのマイページからも、スコア情報を確認可能 スコアレポートではスコア・グレードを技能別に表示。スコアに応じて技能ごとのYour Performanceを表示 スコアレポート見本: http://www.benesse-gtec.com/cbt/about/score.html	①受験日より2年以内であれば再発行可能。各個人が1通1,080円(税込)にてマイページからの申し込み ②大学側から名前・TestID・生年月日の指定があれば、結果スコアを直送可能 ③有効期限は受験日から2年間
GTEC for STUDENTS	①トータルスコア 0~810点 リーディング 0~320点 リスニング 0~320点 (スピーキング 0~170点) ライティング 0~170点 ②独自のグレード(1~7)	<読む・聞く>マークシートに基づきコンピュータによる採点 <話す・書く>2名の採点者が評価基準に基づいて評価 ※評価基準>ライティングの採点基準については下記URL参照 (http://gtec-for-students.jp/product/pro_student.htm#writing)	試験終了後、約4週間後、生徒スコアレポート・教員用概要を学校にお届け ①各スキルについてスコアとグレード、および観点別評価。次の学習につながるスキルUPメッセージを記載。スコアレポート見本: http://gtec-for-students.jp/product/pro_student.htm#writing ②スコアに基づき効果的と思われる指導方法について記載 教員用概要見本: http://gtec-for-students.jp/product/pro_teacher.htm	①スコアレポートに印字されているTest Dateから2年後の同月末まで再発行可能。受験者個人からの再発行依頼はなし。(学校を介して申し込み) ②大学への直送はなし ③有効期限はTest Dateから2年後の同月末まで
IELTS	①総合スコアおよび各技能別スコア(総合も各技能とも1.0~9.0までの0.5刻み。1.0 = Non-user~9.0 = Expert user) ・読む 1.0~9.0点 ・聞く 1.0~9.0点 ・話す 1.0~9.0点 ・書く 1.0~9.0点 ・トータルスコア 1.0~9.0点	<読む・聞く>・研修を受けた採点者による採点 ・各40項目の正解数によってバンドスコアが決定 <話す・書く>資格を持ち、研修を受けた試験官1~4名により評価基準に基づいて評価 <評価基準> http://www.ielts.org/researchers/score_processing_and_reporting.aspx	①受験者には、4技能別及び総合点のバンドスコアをそれぞれ1.0~9.0でフィードバック ②団体受験の教育機関にはエクスプロービューにて上記情報を成績提供。各機関の要望に応じて、別途分析資料を提供可能な範囲で用意	①再発行は本人の申請により、受験日から2年以内であれば何通でも可能 ②教育機関はTRF Verification Serviceに加入することにより、オンラインにてその機関へのスコア提出を希望している受験者成績一覧を一括ダウンロードすることが可能。また、同じシステムを使い、スコアの真偽も確認可能 ③受験日から2年間
TEAP	①各技能別スコア(各技能とも20~100点) ・読む 20~100点 ・聞く 20~100点 ・話す 20~100点 ・書く 20~100点 ②CEFRレベルによる成績表示	<読む・聞く>マークシートに基づきコンピュータによる採点 <話す・書く>複数の採点者が評価基準に基づいて評価 <評価基準>・書く> http://www.eiken.or.jp/teap/construct/rating_crit.html <評価基準>・話す> http://www.eiken.or.jp/teap/construct/sp_rating_crit.html	①4技能別標準化スコア。該当するCEFRレベル、Can-do Statements、分野/タスク別到達度等を記載し、受験者の技能毎の現状のレベルを詳細に伝えている http://www.eiken.or.jp/teap/result/ ②2015年度よりTEAP CSEスコア併記	①スコアレポートの再発行を希望する場合は有償での発行となる ②大学への成績結果提供大学等が当テスト利用型入試を行い、受験者が当該大学等に出席した場合は、大学の要請により受験者の成績結果を提供する ③受験者が取得した成績結果は、当テストを受験した日の属する年度の翌年度末3月31日まで有効期限とし、これを過ぎた成績結果により大学へ出席した場合は無効となる 参照:「TEAP受験規約」 http://www.eiken.or.jp/teap/apply/pdf/agreement.pdf
TEAP GBT	①各技能別スコア(各技能とも0~200点) ・読む 0~200点 ・聞く 0~200点 ・話す 0~200点 ・書く 0~200点 ②CEFRレベルによる成績表示	<読む・聞く>コンピュータによる自動採点 <話す・書く>所定のトレーニングを受けた、複数の採点者が、スタンダードセッティングで定めた評価基準に基づいて採点を行う。採点者間で採点のずれが生じた際には、異なる採点者がさらに採点を行う。	①4技能別スコア、該当するCEFRレベルを記載し、受験者の技能毎の現状のレベルを詳細に伝えている ②TEAP GBT CSEスコアも併記	①スコアレポートの再発行を希望する場合は有償での発行となる ②大学への成績結果提供大学等が当テスト利用型入試を行い、受験者が当該大学等に出席した場合は、大学の要請により受験者の成績結果を提供する ③受験者が取得した成績結果は、当テストを受験した日の属する年度の翌年度末3月31日まで有効期限とし、これを過ぎた成績結果により大学へ出席した場合は無効となる
TOEFL (TOEFL iBT)	①総合スコア(0~120点)および各技能別スコア(各技能とも0~30点) ・読む 0~30点 ・聞く 0~30点 ・話す 0~30点 ・書く 0~30点 ①トータルスコア 0~120点	<読む・聞く>コンピュータによる自動採点 <話す>複数の採点者が採点基準に基づいて評価。採点基準は以下URL参照 https://www.ets.org/s/toefl/pdf/toefl_speaking_rubrics.pdf <書く>採点者とコンピュータによる自動採点。採点基準は以下URL参照 https://www.ets.org/s/toefl/pdf/toefl_writing_rubrics.pdf	①スコアに応じて3つないし4つのレベルに分けられ、レベル別のアドバイスがETSのウェブサイトもしくはTest Taker Score Reportに記載される。(以下参照) http://www.toefl-iibt.jp/toefl-iibt/score_analysis.html ②スコアレポートにはスコアに関する簡単な説明が記載されている。(以下参照) https://www.ets.org/s/toefl/institutions/scores/interpret/	①受験日から2年以内のスコアであれば再発行可能(有料) ②受験者個人からの申し込みでスコアレポートに再発行手続きを行う Official Score Report: 受験者が申請すると、主催団体ETSから大学へ直接送付される Test Taker Score Report: 受験者が申請すると、ETSから受験者へ送付される 本邦のインターネットもしくは郵送されたOfficial Score Reportでスコアを確認する ③受験日から2年間有効
TOEFL Junior Comprehensive	①総合スコアおよび各技能別スコア ・読む 140~180点 ・聞く 140~180点 ・話す 0~16点 ・書く 0~16点 ②2015年度は各技能均等配点に移行予定) ③トータルスコア 1~8 (それぞれのスコアを総合的に評価)	<読む・聞く>マークシート方式で回答、コンピュータによる採点。 <話す・書く>Online Network for Evaluation (ONE)に基づき、所定のトレーニングを終了した複数の査定員(レイター)によって採点。レイター間で誤差が発生した場合には、別途レイターを追加。Scoring Leaders、Content Scoring Leadersなどにより常に査定結果がチェックされ、評価基準にブレがなく公平な評価が行われる	①4技能それぞれのスコアとそれぞれのスコアで何ができるかを表示。またそれぞれのスコアに対応するCEFRレベルを表示。さらに、Readingについては、Lexile指数(読書能力と本の難易度を200L~1700Lの数値で表示)にて受験者に合った英語の書籍を専用サイトから見つけることができる。(総合的な英語運用能力についても1~6のレベルで、またそのレベルで何ができるかを表示することができ)	①本人からの申請に基づき、受験日から2年以内であれば再発行可能 ②本人からの申請に基づく弊社から学校へスコア直送制度についても準備中 ③試験結果の有効期限は受験日から2年以内
TOEICテスト	①総合スコアおよび各技能別スコア ・リスニングスコア5~495点 ・リーディングスコア5~495点 ・トータルスコア10~990点	<読む・聞く>マークシートに基づきコンピュータによる採点。常に評価基準を一定に保つためにスコアの同一化(Equating)と呼ばれる統計処理を行い算出	①(公開テスト・団体特別受験制度<IPテスト>共通): セクション別スコアおよびトータルスコアを表示。また、「Percentile Rank」(Score Descriptors(レベル別評価))「Abilities Measured(項目別正答率)」の3つの評価も表示 ②(団体特別受験制度のみ): 団体ご担当者にスコアロスター(成績一覧表)を提供。	<公開テスト> 受験者からの依頼により試験日より2年以内の申請で再発行可能。 <IPテスト> 団体担当者からの依頼により解答用紙を採点した年度および翌年度4月1日から2年間の申請で再発行可能。
TOEIC Speaking & Writing Tests (TOEIC S&Wテスト)	①各技能別スコア ・スピーキングスコア 0~200点 ・ライティングスコア 0~200点	<話す・書く>ルーブリックに基づき、採点の訓練を受けた複数の評価者が採点。ETSの統計の専門家がすべての採点結果を分析・検証。 評価基準: http://www.toeic.or.jp/library/toeic_data/sw/sampletest/pdf/sw_handbook.pdf	①(公開テスト・団体特別受験制度<IPテスト>共通): 公開テストの受験者には公式認定証を送付。IPテストの受験者にはスコアレポート(個人成績表)を発行。スコア表示に加え、スコアをもとにした評価がProficiency Level Descriptors(能力レベル別評価)も表示。さらに、スピーキングテストにおいては、Pronunciation(発音)、Intonation(イントネーション)とStress(アクセント)についての評価もそれぞれ3段階で表示。 ②(団体特別受験制度のみ): 団体ご担当者にスコアロスター(成績一覧表)を提供。	<公開テスト> 受験者からの依頼により試験日より2年以内の申請で再発行可能。 <IPテスト> 団体担当者からの依頼により解答用紙を採点した年度および翌年度4月1日から2年間の申請で再発行可能。

資料2 英語力評価及び入学選抜における英語の資格・検定試験の活用について 基礎資料

調査・研究・その他			
試験名	CEFRとの関係に関する研究 等	基準集団	ホームページのURL
Cambridge English ケンブリッジ英検	Cambridge English (ケンブリッジ英検)はCEFRと共に開発 (部分的にはあるが、CEFRはCambridge Englishをベースに設計された経緯あり) 参照HP: http://www.cambridgeenglish.org/research-and-validation/fitness-for-purpose/	Cambridge EnglishとCEFRに関する研究・開発の過程で2001年にアイテム・バンクを導入、その際は過去20年間分の変換者1,500万人分のデータを分析活用。 http://www.cambridgeenglish.org/images/126011-using-cefr-principles-of-good-practice.pdf (Section 3. Applying the CEFR in practice) CEFRとの関係: 開発者の一人であるブライアン・ノース博士の検証作業プロセスに関するコメント、「(中略)CEF(ヨーロッパ共通参照枠)のレベルとケンブリッジ英検各試験のレベルの間に関連があるため、例外とされます」	www.cambridgeenglish.org/jp/ (日本語) www.cambridgeenglish.org/ (英語)
英検英語検定	・英検Can-doリストとCEFRとの比較 ・専門家によって構成されるパネルを中心として、①Basket法(*1) ②Modified Angoff法(*2)を使用して検証 ・EALTA(欧州言語テスト・評価学会)エキスパート研究者との共同研究 ・他試験結果(TOEFL PBT,IBT等)との比較 http://www.eiken.or.jp/eiken/group/result/	延べ20,000人を超える1級から5級の合格者(合格直後)に対し、数回に渡る大規模アンケート調査を実施	https://www.eiken.or.jp/eiken/
GTEC CBT	実際のGTEC CBT受験者によるCEFRレベル別Can-doアンケート結果により検証。※科学研究費補助金 基礎研究(A)「学習者コーパスによる英語CEFRレベル基準特性の特定と活用に関する総合的研究」における「CEFR-J研究開発チーム」の「CEFR-J」デスクリプタを用いて関連づけ調査を実施	大学生を中心に約1,000名程度を調査対象として実施。調査にあたっては、対象者全員がGTEC CBTを受検した上で左記アンケートに回答	http://www.benesse-gtec.com/cbt/
GTEC for STUDENTS	GTEC for STUDENTSとGTEC CBTのスコアの関連性を前提とし、上記研究内容と結び付けることにより検証。	GTEC CBTに準じる	http://gtec.for-students.jp/
IELTS	ケンブリッジ大学英語検定機構によるCEFR共同開発時のデータをもとにマッピング。テスト結果使用者等による関係者からのフィードバックをもとに検証 (参照1): "IELTS, Cambridge ESOL examinations and the Common European Framework" written by Lynda Taylor: http://www.cambridgeenglish.org/images/23135-research-notes-18.pdf (参照2): http://www.ielts.org/researchers/common_european_framework.aspx	1998年から継続的に様々な検証研究が行われている。IELTSのケンブリッジ英検との比較、IELTS受験者を対象に行うCan Do responseの研究などがある	http://www.eiken.or.jp/ielts/
TEAP	・Can-do アンケートによるCEFRとの比較 ・独立研究機関(ORELLA)との共同研究 ・他試験結果(TOEFL ITP,IBT等)との比較 http://www.eiken.or.jp/teap/group/report.html	数百名を超える高校生・大学1年生を対象に、大規模アンケート調査を実施	http://www.eiken.or.jp/teap/
TEAP CBT	・CEFRの対応付けを公式マニュアル(Relating Language Examinations to the CEFR: A Manual, Council of Europe)にのっとり実施。 ・Listening/Readingは、Tucker-Angoff Methodのうちの一つ、Yes/No methodを使用 ・Speaking/Writingは、Bookmark Methodを応用し、解答を総合的に評価 ・TEAPとの1000名以上の相関性調査を行い、TEAPのCEFRレベルとの比較	1000名以上の大学生を対象に、大規模なモニター調査を実施	http://www.eiken.or.jp/teap/ に、TEAP CBT情報を近日公開予定
TOEFL (TOEFL iBT)	・ETSによる調査「Linking English-Language Test Scores Onto Common European Frame of Reference」 http://www.ets.org/Media/Research/pdf/RR-08-34.pdf The Association between TOEFL iBT® Test Scores and the Common European Framework of Reference (CEFR) Levels」 http://www.ets.org/Media/Research/pdf/RM-15-06.pdf?WT.ac=clkb ・ETSにおけるTOEFLに関するリサーチ https://www.ets.org/toefl/research ・TOEFL iBTとCEFRのスコアマッピング https://www.ets.org/toefl/institutions/scores/compare/	・Modified Angoff 法(*2)を使用 ・5,000名以上のテスト受験者データを使用 ・大学や英語教師からのCEFRレベルとTOEFLスコアレベルに関するフィードバックも活用	ETSウェブサイト: http://www.ets.org/jp/toefl CIEEウェブサイト: http://www.cieej.or.jp/toefl/index.html 学校・教育機関向けサイト: http://www.toefl-ibt.jp/
TOEFL Junior Comprehensive	・Modified Angoff 法(*2)を使用、TOEFL Junior Standard(2技能試験)のマッピングスタディとTOEFL Junior Comprehensiveのマッピングスタディおよびそれぞれのスタディの調整研究を実施 ・15か国、18名の有識者による検討 参照HP: http://www.ets.org/toefl/junior/scores_research/standard/cefr/ http://www.ets.org/global/content/download/14736/245545/version/1/file/TOEFL+Junior+C2%AE++Comprehensive+CEFR+Mapping%E2%80%93MAR271-LR(1).pdf	・TOEFL Junior Standard: 世界各国から8,529人 ・TOEFL Junior Comprehensive (TOEFL Junior Standardとの調整スタディを含む): 世界各国から1,000人	http://go-t.jp
TOEICテスト	・Modified Angoff 法(*2)を使用 ・22名の有識者による検討 ・大学や英語教師からのCEFRレベルとTOEICスコアレベルに関するフィードバックも活用 参照HP: http://www.ets.org/s/toeic/pdf/toeic_cef_mapping_flyer.pdf	100,000名以上のテスト受験者データを使用	http://www.toeic.or.jp/
TOEIC Speaking & Writing Tests (TOEIC S&Wテスト)	・Modified Angoff 法(*2)を使用 ・22名の有識者による検討 ・大学や英語教師からのCEFRレベルとTOEICスコアレベルに関するフィードバックも活用 参照HP: http://www.ets.org/s/toeic/pdf/toeic_cef_mapping_flyer.pdf	TOEIC S&Wテスト受験者データを使用	http://www.toeic.or.jp/